知　事　賞

おいしい水が飲めるのは当たり前？

静岡理工科大学星陵中学校

二年　前島　さん

部活の後、のどがからからに渇いた時に飲む水は最高だ。体に染み渡る感じがする。特に、富士宮の水は富士山の雪解け水からできているので、水道から出てくる水もおいしい。ぼくにとって、それは当たり前のことだ。

今年は、東日本大震災から十年目の年だった。ニュースや新聞で当時のいろいろな情報が取り上げられていた。その時の話題で水道の復旧がライフラインの中では特に遅く、水が供給されないことで困っていた人が多かったことを知った。十年前は三歳だったので、当時の記憶は全くない。でも、中学生になった今だからこそ分かることがある。水は生活する上で欠かせないものだ。水は様々なことに使われている。飲むだけでなく、体を洗って清潔に保ったり、ものを洗ったり、洗濯やトイレにも使う。もし水が無かったら、それら一切のことができなくなる。考えただけで絶望する。そして、何とかして水を得ようとするだろう。だから、水が水道から出てくるのは当たり前ではなく、すごく幸せなことだと改めて感じた。

ぼくが住んでいる北山は今でこそ水が豊富だ。でも昔はそうではなかった。昔、北山は水不足に悩まされ、水を得るために、近隣の地区と水争いをしたこともあるそうだ。小学校の時の総合や今年の社会の自由研究で、北山用水路のことを調べて分かったことがいくつかあった。北山用水

路は武田攻めに勝利した徳川家康が北山を陣屋にしたお礼に日出上人の願いを受けて、代官井出甚之助正次に命じて作られた。それ以降、北山は水不足に悩まされなくなったそうだ。「うめどい」というサイフォンの原理を活用した高い技術も使われていることも分かった。

小学校の時、北山用水路の管理をしている友達のお父さんから話を聞いた事がある。北山用水は、田畑に使われるだけでなく、消防の時の放水にも使われ、現在は小水力発電にも使われているそうだ。また、雨が降ったら北山用水が氾濫しないように流す量を変える必要があるため、すぐに分かるように、板を立てかけていて、板に当たる雨の音がしたらすぐに調節に行けるようにして北山用水を守っていると教えてくれた。

ぼくが普段飲んでいる水道の水も、安全・安心に届けるために多くの人が関わっていることも小学校の時に学んだ。自然の水瓶の役割をする山も守る人がいる。地層からしみ出た水を飲み水に変えるために、浄水場でのろ過を管理している人がいる。ぼくたちの家に届けるために、市役所の水道課の方が水に異常がないか守っている。また、使い終わった水をきれいに処理する人がいる。多くの人に守られて、ぼくは当たり前のように水を使い、水を飲んでいる。

海外や震災のニュースを見ると、当たり前に水が飲めることは必ずしも永遠に続くとは限らないと言える。

だから、今、ぼくができることは、水を安全に届けてくれることに関わっている多くの人々に感謝して水を無駄遣いしないこと。また、ぼくが知っている北山用水の歴史や水が届けられるまでの人々の関わりを多くの人に伝えていくことだと考えている。いつまでものどが渇いた時に最高の一杯が飲めるように。